

テスト技法さえあればテストは上手いくの？

氏名：	ときわ かおり
SNS：	@caori_t
所属：	ゆるっとファシリテーター
分野：	チームプロセス支援（コンサル）

夏の WACATE は 2 年振りの開催です。個人的には冬派ですが、1 年延期して温めたテーマでもあり、「私も参加したい！」と思うセッションになっているので、2 日間どっぷり楽しんでいただければ幸いです。

さて今回のテーマ「テスト技法」について、「テスト技法さえあればテストは上手いくの？」という問いを立ててみます。あなたはごどう思いますか？

私の現時点での考えは「そんなに甘くないよね」です。

テストをプロセスで考えたときに、一般的なテスト技法が適用できるのは「テスト設計」の部分。でもテストの悩みを思い浮かべてみると「テスト計画」「テスト分析」「テスト実装」「テスト実行」いたるところにあるでしょう。更にはテストプロセスには留まらないことまで多岐にわたるはず。そう、テストは広大なのです。

一方で「テストの技術を学びたい！」と考えたときに、手軽に取り掛かれるものの一つとして「テスト技法」があるのも事実です。良質な書籍や練習帳も売ってれば、玉石混淆ではありますがありとあらゆる情報があちらこちらに転がっています。

あなたがもし「テスト実行」を担当していて「なぜこんなに大量のパターンをテストしなければならないのか理解できない！こんなに要らないのでは？」と思っていたり、「テスト実装」を担当していて「なぜテスト設計でこのバリエーションを選択したのだろう？意図が見えないなあ…」とモヤモヤしていたり、「テスト設計」を担当していて「このテストはどういうパラメータを選択して実装してもらおうと良いか自信がないなあ…」と行き当たりばったりで納得感のない選択をしていたりするなら、「テスト技法」を知ることが抜け出すきっかけになるかもしれません。

でも、あなたがもし「テスト全般」や、もっと広く「QA」を担当していて、「なぜ市場での不具合が減らないんだろう…」とか「どうしたらチームとして品質を上げられるんだろう…」という悩みを抱えていたら、きっとそれは「テスト技法」を知るだけでは解決できません。

テストにかかわるあなたにとって「テスト技法」が最善の手段になりうる日もあるでしょう。そんな日が来た時に「今ここが使うべきポイントだ！」と気付けるように、広大なテストの世界を楽しんでいきましょう(/・ω・)/

WACATE2020 冬以降の加速事例（スペースの都合で Output 中心に並べてみました）

認定研修 Agile Testing for the Whole Team 参加 ※Agile Testing Fellowship メンバー認定

<https://www.jp.agilergo.com/online-agiletesting-gregory-202103>

JaSST'21 Tokyo ※企画セッション 『WACATE 流テスト分析のワークショップを体感してみよう』

<http://www.jasst.jp/symposium/jasst21tokyo/details.html#B5>

JaSST'21 Tokyo ※一般公募セッション 『新しい品質保証のかたちを目指して～君の心に「ファンネル」はあるか？～』

<http://www.jasst.jp/symposium/jasst21tokyo/details.html#B8>

Agile Testing Night #5 QA ファンネルをふりかえる夜 登壇

<https://wingarc1st-spqi.connpass.com/event/209012/>

SigSQA 番外編 ～ QA ファンネルをふりかえる夜 後編 ～ 開催

<https://sigsqa.connpass.com/event/210967/>

ソフトウェアシンポジウム（SS2021）にて SigSQA で WG 『新しい品質保証のかたちを目指して～SQA 戦略に必要なものは何か？～』ワークショップ実施

https://www.sea.jp/ss2021/working_groups.php#wg4